

## バハレーンにおけるイスラーム銀行の経営効率性

アジア経済研究所 齋藤 純

バハレーンは、イスラーム金融の国際的なセンターであり MENA（中東・北アフリカ）諸国の中でも早期から金融自由化に取り組み、多様な銀行部門と整備された競争環境を持つ。本稿では、バハレーン銀行業の経営形態と資本構成、収益構造を明らかにした上で、それらの特徴が競争的な環境の中で経営を続けるために有効に機能しているかどうかを見るために、経営効率性の計測を行う。

包絡分析法によるバハレーン銀行業の効率性分析から得られた結論を整理すると以下のようになる。2002－2006 年においては、人件費や物件費の高騰などによりバハレーン銀行業全体の技術進歩は停滞していたが、各銀行が貸出金やイスラーム金融商品を積極的に拡大させて規模経済性を発揮させたことと、特にイスラーム銀行、外資系銀行、中規模銀行が各自の生産技術の改善を行ったことによって、結果的にそれぞれの生産性を拡張し続けることができたことが示唆された。